

2021年度(前期)

NITE講座(シラバス)

10月4日更新

科目名	NITE講座2021 化学物質管理	募集定員	900名	開講機関 (実施方法)	製品評価技術基盤機構 化学物質管理センター (オンライン講座:Zoomウェビナー)	講義日時	11月12日(金)11:10-17:20 11月19日(金)10:00-17:40 12月2日(木)13:00-16:05 12月3日(金)11:00-17:00
科目概要(300字)	本講座は昨年度までの事業者等の皆様の化学物質管理の人材育成に役立つ「化学物質に関するリスク評価とリスク管理」の内容に加え、受講者の方にそれぞれの目的に合致した講座を選択していただけるよう、また、NITE化学物質管理センターが発信する情報等をより実践的に活用し適切な化学物質管理に役立てていただけるようにリニューアルしました。今年度は①「制度概要編」を、主に企業等で化学物質管理の担当者となり経験が浅い方、②「評価方法編」を、主に企業等で化学物質管理やリスク評価を担当している方、③「NITE活用・支援編」を、主に企業等で化学物質管理やリスク評価を担当している方および、化審法など関連法令の届出に携わる方に向けた内容として開催します。なお、後期は特に有害性評価の理解を深めたい方向けの④「特論編」を開催予定です。						

科目構成	No.	講義名	講義概要(150字)	講義日	時間	開講場所	講師	所属
	0	ガイダンス	NITE講座2021化学物質管理の各編の構成とねらい、受講における注意事項等を説明します。		11:10-11:15		大塚 理絵	化学物質管理センター 計画課
I. 化学物質管理 (制度概論編)	1	経済産業省の化学物質管理政策について	日本の化学物質管理制度の変遷、化学物質の審査及び製造等の規制に関する法律や特定化学物質の環境への排出量の把握等及び管理の改善の促進に関する法律の現状など経済産業省の化学物質管理施策について紹介いたします。	11月12日(金)	11:15-12:00	オンライン (Zoom ウェビナー)	藤沢 久	経済産業省製造産業局 化学物質管理課 化学物質安全室
	2	安衛法に基づく化学物質管理の考え方と留意点	「労働安全衛生法」(安衛法)に基づく化学物質管理について、法令の概要、考え方とともに、管理上留意すべき点などについて解説し、最新の化学物質管理に係る安衛法関係法令の見直しについても紹介します。		13:00-14:00		樋口 政純	厚生労働省労働基準局 安全衛生部 化学物質対策課
	3	化審法の概要①(新規化学物質審査制度)	「化学物質の審査及び製造等の規制に関する法律」(化審法)について、成り立ちや改正経緯をご説明します。また、新たに製造・輸入される化学物質に対する事前審査制度の概要と運用実績、最近の動向についても紹介します。		14:20-15:15		高橋 和博	化学物質管理センター 安全審査課
	4	化審法の概要②(一般化学物質等のリスク評価制度)	化審法における一般化学物質等の製造・輸入後の化学物質管理について、製造数量等の届出制度や国が実施するリスク評価制度等を、その成り立ちも含めて紹介します。		15:35-16:15		前田 知宏	化学物質管理センター リスク評価課
	5	化管法の概要	「特定化学物質の環境への排出量の把握等及び管理の改善の促進に関する法律」(化管法)における、排出量報告・集計・公表制度(PRTR)や化学物質提供時の情報提供制度(SDS)の概要を解説します。		16:35-17:20		吉岡 広行	化学物質管理センター リスク管理課
II. 化学物質管理 (評価方法編)	1	リスク評価概論	化学物質のリスク評価の全体像について理解することを目的とし、評価の準備、有害性評価、排出量推計、暴露評価、リスク推計等について説明します。	11月19日(金)	10:00-10:40	オンライン (Zoom ウェビナー)	藤原 亜矢子	化学物質管理センター リスク評価課
	2	有害性評価(人健康影響)～証拠の重み付け(WoE)に基づく判断とは～	収集した有害性評価データを適切に評価することはなかなか大変です。例えば、遺伝毒性では多くの種類や数の試験が実施され、相反する結果もよく認められます。このような場合、証拠の重み付け(WoE)に基づく判断が必要となります。本講義では、どのようにWoEを用いるか具体例を含め解説します。		11:00-12:00		森田 健	化学物質管理センター 上席技術専門職員
	3	有害性評価(生態影響)～生態リスク評価の背景にある考え方～	化学物質の動物体に対する有害性の評価方法を学びます。化学物質の有害性クラスの付け方など評価の実務に加えて、評価方法の背景にある生態リスク評価の考え方について紹介します。		13:00-14:20		加茂 将史	産業技術総合研究所 安全科学研究部門 主任研究員
	4	暴露評価(環境暴露)とリスク評価～化審法のリスク評価を例に～	化学物質の安全性を判断するには、その有害性だけでなく、暴露量を知ることが重要です。環境を通して受ける化学物質の暴露量や、それを用いてリスク評価を行う方法を化審法のリスク評価を例に解説します。		14:40-16:00		玉造 晃弘	化学物質管理センター リスク評価課
	5	暴露評価(直接暴露)とリスク評価～消費者製品に含まれる化学物質のリスク評価を例に～	化学物質の安全性を判断するには、その有害性だけでなく、化学物質からの暴露量を知ることが重要です。化学物質の直接暴露におけるリスク評価について、身近な消費者製品に含まれる化学物質の暴露量や、それを用いてリスク評価を行う方法を事例とともに解説します。		16:20-17:40		細田 隼基	化学物質管理センター リスク評価課
III. サステナブルな化学物質管理の推進に向けて～NITE化学物質管理センターが支援します～(NITE活用・支援編)	1	化学物質管理に関する情報収集～NITEのツールで効率化しナイト!～	化学物質管理において、化学物質の法規制や有害性の情報を得ることは重要です。NITEが提供している化学物質管理関係情報コンテンツ(データベース、メールマガジン)にどのような情報が掲載されているかを紹介し、化学物質の法規制や有害性に関する情報の調べ方を解説します。	12月2日、 3日 (木～金)	12月2日 13:00-14:20	オンライン (Zoom ウェビナー)	高草木 絵莉	化学物質管理センター 情報業務課
	2	化審法における新規化学物質の届出対象と申請資料のポイント及び分解・蓄積性試験と判定の概論	化審法における新規化学物質の製造又は輸入を行う際には、事前に国へ届出を行う必要があります。その際の届出が必要となるかの判断及び届出資料を作成する際のポイントについて紹介します。また、届出の際に求められる試験のうち、分解性又は蓄積性の評価に関わる分解性試験、生物蓄積性試験、高分子プロセス試験の概要についても説明します。		12月2日 14:40-16:05		有井 崇	化学物質管理センター 安全審査課
	3	in silico評価手法の活用	化学物質の安全性評価における動物実験は世界的に削減の流れにあり、化審法や欧米の規制行政では、動物実験代替法の1つであるコンピュータを用いたin silico評価手法が活用されています。化学物質の安全性評価で活用されているin silico評価手法の概要と規制行政での活用状況、評価に使えるツール、企業における活用推進のための技術支援事例について紹介します。		12月3日 11:00-12:00		竹内 健祐	化学物質管理センター 安全審査課
	4	PRTRマップとその活用	PRTR対象化学物質がどこで、どれだけ大気へ排出されているか、また推計濃度はどれくらいかをPRTRマップで知ることができます。PRTRマップ及びそのデータを利用して、事業所からの対象化学物質の大気排出量、エアロごとの大気排出量、推計濃度を地図上で視覚的に把握する活用例を紹介します。		12月3日 13:00-14:00		高橋 成明	化学物質管理センター リスク管理課
	5	事業者における化学物質のリスクの把握方法	化学物質の適正な管理のためには、化学物質を取り扱う事業者等がそのリスクを把握することが求められます。化審法におけるリスク評価と同等の計算ができるように開発されたツール(PRAS-NITE)を用いたリスクの把握方法や、活用方法の一例を紹介します。		12月3日 14:20-15:10		中村 淳	化学物質管理センター リスク評価課
	6	化学品のGHS分類とSDS解説(初学者向け)	GHS? SDS? これっていったいなんのこと? SDS3法(安衛法、化管法、毒劇法)の義務とどのような関係があるのでしょうか? そんなGHS・SDSに関する基礎的な疑問を解消します。混合物のGHSを分類するフリーツール(NITE-Gmics)についても紹介します。		12月3日 15:30-17:00		正木 啓仁	化学物質管理センター 情報業務課

取りまとめ者
化学物質管理センター計画課 五嶋、大塚